

令和 6 年度第 1 回福島県後期高齢者医療懇談会議事概要

日 時 令和 6 年 1 1 月 1 9 日（火） 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時

場 所 福島県自治会館 2 階 「特別会議室」

出 席 者 別紙出席者名簿のとおり

議事要旨 議題

(1) 令和 5 年度後期高齢者医療制度の概況等について

(2) 令和 5 年度保健事業の実績及び令和 6 年度実施状況について

(3) その他

議事概要

事務局より議題について説明を行い、その後、委員から意見等を聴取した。委員の主な意見等は以下のとおり。

○令和 5 年度後期高齢者医療制度の概況等について

- ・ 一人当たり医療費は、いわき・相双方面が高いように思われる。この地域差をどう捉えているか。文化的に医療機関にかかりたいと思っている人が多いのか。
（事務局）医療機関の数・医療機関にかかる機会が関連しているのではないかと想定しているが、確固たる根拠はない。

○令和 5 年度保健事業の実績及び令和 6 年度実施状況について

- ・ 健診受診率が伸びない理由は、通院しているから健診を受けなくても良いと考える高齢者が多いためと推測される。対策を考えているか。
（事務局）医療機関で健診を受ける施設健診が伸びている。ほとんどの市町村において施設健診が増加しており、通院先で健診を受けられる体制は整ってきている。それでも通院しているから健診は受けなくて良い、という意識を持つ高齢者はいらっしゃるので、来年度は広報に力を入れ、年に一回は健診を受けるよう周知啓発していきたい。
- ・ 10 項目中 1 項目が未受診である等、健診の未受診項目がある高齢者に対し、自身がどの項目について未受診なのか分かるように通知しているか。健診を受けてはいるが、未受診項目がある方に対し、どの健診が未受診であるのか自覚を持っただけのよう、ご本人とかかりつけ医に、その旨を分かりやすく伝える工夫

をしていただきたい。

(事務局) 健診内容をポスターに入れる等、健診項目について広報していきたい。

- ・市医師会に協力を仰ぎ、患者の未受診項目についてフィードバックして貰っているという話を聞いたので、そういう運動が広がればよい。
 - ・現役世代は職場で健診を受ける機会があるが、高齢者はどうやって健診場所に行くかが課題。
 - ・健診受診率が伸びてくれば医療費の適正化にもつながる。人口が多い市は一人一人というわけにはいかない所以受診勧奨の工夫が必要である。
 - ・高齢者の場合、認知機能の問題や、健診先への移動が難しいという運動機能の問題がある。民生委員と協力し、一人では動けない方、忘れてしまう方をきめ細かくサポートし、促進していく方法もある。
 - ・健診受診率の高い市町村は、健診時の介護チェックにより介護予防につながっている。住民個人ではなく地域全体に表彰して競わせるなど、地域みんなで健診しようという空気にすれば良い。
 - ・保健事業と介護予防の一体的な実施について、市町村の足並みが揃わない理由はどこにあるのか。補助金は十分に交付しているのか。
- (事務局) 国の特別調整交付金の基準額の範囲ではあるが、一体的な実施の取り組み状況に応じて、交付している。足並みが揃わない理由は、人手不足にあると認識している。

以上

福島県後期高齢者医療懇談会委員名簿

任期:令和5年10月30日～令和7年10月29日

※令和6年11月19日現在 (敬称略)

委員構成	所属団体	役職	氏名
被保険者等代表	公益社団法人 福島県シルバー人材センター連合会	専務理事 兼 事務局長	さとう よしすみ 佐藤 義住
	公益財団法人 福島県老人クラブ連合会	副会長 兼 女性部長	おおわだ えいこ 大和田 榮子
	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会	事務局長	せき やすお 関 靖男
支援世代代表	公益社団法人 日本青年会議所 福島ブロック協議会	運営専務	ありが たけし 有賀 毅
保険医等代表	一般社団法人 福島県医師会	副会長	やぶき たかし 矢吹 孝志
	公益社団法人 福島県歯科医師会	理事	なかじま としお 中島 十四夫
	一般社団法人 福島県薬剤師会	副会長	まつした あつし 松下 敦
学識経験者等代表	福島学院大学	福祉学部 福祉心理学科教授	えんどう としみ 遠藤 寿海
医療保険者代表	福島県国民健康保険団体連合会	常務理事	はやしあきひこ 林 昭彦
	全国健康保険協会福島支部	支部長	えんどう たかお 遠藤 隆男
行政関係者	福島県	国民健康保険課長	きつない としゆき 橘内 俊之
	福島市	国保年金課長	たんじ そういちろう 丹治 聡一郎